

片瀬だより

令和6年9月25日 発行
編集・発行
片瀬だより編集委員会
藤沢市片瀬3丁目9番6号
電話 29-7171
FAX 25-8907



片瀬公民館(本館)

【おねがい】

片瀬だより編集委員会では、10月19日(土)・20日(日)に行われる「片瀬地区ふれあいまつり」の古本市開催のため、古本を集めています。参考書、汚れのひどいものを除き、10月17日(木)までに片瀬公民館までお持ち込みください。古本市終了後、残った本は処分させていただきます。

『藤沢の山と海で 《要申込》

親子でキュン体験しよう！(仮)』

日時：①11月10日(日)

「少年の森でおいもほり&焼き芋体験」

②11月16日(土) ※荒天時17日(日)

「片瀬漁港のマルシェでお魚屋さん体験」

冬の子ども工作教室 《要申込》

日時：12月21日(土)

内容：未定

片瀬しおさいセンター

スマホお助け隊 《要申込》

日時：10月10日(木)

11月21日(木)

12月19日(木)

午前9時から正午まで

知笑の輪倶楽部

日時：11月25日(月)

午後1時30分から

3時30分まで

第3回「江の島貝細工

ものがたり」

ようこそ小さな空間

『アンソレイユ』

日時：10月7日(月)

11月11日(月)

12月9日(月)

午前10時から

正午まで

夜のエクササイズ

『脂肪燃焼！

ボクシングエクササイズ』

日時：10月9日(水)

11月6日(水)

12月4日(水)

午後7時から

8時まで

赤ちゃん和妈妈の

ふれ愛タイム《要申込》

『バランスボール』

日時：12月5日(木)

午前10時から

11時15分まで

母親と

2か月から

1歳0か月児

おもちゃの病院

日時：10月19日(土)

ふれあいまつり開催

のため

午後1時から

午後3時まで

11月16日(土)

12月21日(土)

午後1時30分から

3時30分まで

◎申込みは、すべて本館へ電話・来館

申込み、詳細は広報・地域回覧・ホームページ・学校配布のチラシをご確認ください。

(平日のみ午前8時30分〜午後5時まで) または電子申請で



片瀬の老舗を訪ねて⑫

「片瀬写真館」③

戦争での被災を免れた写真館は、二代目の熊谷守美さんへと受け継がれていきました。いつもきちんとした背広姿でお仕事をされていた守美さんを覚えていらつしやる方も多いのではないのでしょうか。守美さんの趣味の一つが鉄道模型で、お店には設計図をひき、木や厚紙で作られた鉄道模型が展示されていたそうです。江ノ電の写真も多く撮影し、江ノ電100年の折りにはテレビや本で紹介されました。



2代目 熊谷 守美氏



⇒熊谷守美さん命名の記念写真。
初代治純さん撮影。100年前の写真です。



2歳か3歳の美波さん。

そして現在は三代目の美波さんが写真館を継がれています。写真は美波さんがまだ2歳か3歳のものです。



愛犬家の美波さん。
犬の写真もお得意です。

この頃からカメラを持たされ、撮影した写真を現像しては構図などにも注意されていたそうです。子ども心にもそれが嫌で、わざとカメラを忘れて出かけると守美さんが届けにこられたそうです。

美波さんは時代の流れに即した取り組みが必要と考え、デジタル化への対応も早くから取り組み、一級写真技能士のデジタル部門は神奈川県で最初に合格されました。
得意な写真はポートレートと家族写真とのこと。写真を撮る時に大切にしていることはなんですかとお尋ねしたところ「撮られる方の一番良いところを撮ること。そのためには緊張せずに楽しい気分になつ

ていただくように努めています。また『良い写真ができて満足です。そして撮影した日の思い出も家族の宝物になりました』とお声をいただき、私も幸せな気持ちになります」と答えてくださいました。



家族写真。写真と共に
思い出す撮影時の情景。家族の宝物ですね。

片瀬は住んでいる人が穏やかで品がある良い街という美波さん。今後は、スタジオでの撮影だけでなく、お客様のお宅に伺っての撮影にも力を入れていきたいとの抱負も伺いました。これからも、いつ見ても、誰が見ても良い写真を目指して、丁寧で心のこもった一枚を撮り続けて下さることでしょう。

来年2月下旬、写真館の原点ともいえるポートレート写真を展示する展覧会が開かれるそうです。会場は写真館の近く。全て美波さんの最近の作品です。



2本灯台。2度と目に
することのない貴重な
写真ですね
撮影：熊谷 美波さん

江の島は教材の宝庫 『トンボロと陸繋島』

鹿兒嶋 英克 著

今年には片瀬海岸と江の島の間に出現するトンボロに注目が集まりました。

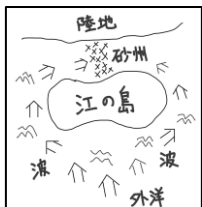
用語を確認しますと、海流によって運ばれた砂が堆積して作られる地形のことを砂州(さす)といいます。江の島のように陸地のそばに島があると、外洋から打ち付ける波が島によって分断され、島の背後でお互いの波が打ち消し合い、そこに土砂がたまりやすくなります。そうやって陸地と島を繋ぐ橋のような地形が出現します。これを陸繋砂州(りくけいさす)といい、繋がった島を陸繋島(りくけいとう)と呼びます。普段は陸地と切り離されている島が、干潮時のみに姿を現す砂州でつながることを「トンボロ現象」と呼んでいます。あわせて、陸繋砂州をトンボロとも呼んでいます。

陸繋砂州と陸繋島で一番有名な地形は函館でしょう。函館山が陸繋島で函館市街が陸繋砂州です。

国土地理院のHPでは「トンボロおよび陸繋島」として47か所の例を挙げています。そのうち関東地方にはいくつあると思いますか？

実は江の島を含め2か所だけです。もう一つは千葉県館山市の「沖の島」です。沖の島は常に陸地とつながっているようですが自然豊かな島のようなです。

江の島のトンボロに興味を持ったら、そのほかにどんな陸繋島や陸繋砂州があるのか、調べてみるのも楽しいと思います。「国土地理院・トンボロ」のキーワードで調べてみてください。



トンボロ現象

江の島道をめぐる

『馬喰橋と岩屋不動尊』

片瀬市民センター発行の「片瀬歴史マップ」の最初に紹介されているのが「①馬喰橋」である。そちらに詳しく書かれている通り、要はこの橋を渡ると馬に難儀が起ころという言い伝えがあったことに由来する。そして次に、「ここから100mほど南下した辺りが「河岸」とよばれ、江戸時代から明治時代にかけて地域流通の拠点「②片瀬湊」であったと紹介されている。現在の馬喰橋辺りの様子からは想像もできない話である。

さて、境川の左岸をそこからさらに江の島方面へ下って新屋敷橋を渡り、左に曲がると片瀬山住宅地であるが、その先に「③岩屋不動尊」がある。

この岩屋不動入口には石造りの鳥居がある。平成3年藤沢市教育委員会発行の『藤沢市文化財総合調査報告書第6集』によれば、この鳥居は嘉永6年（1853）年の建立で、数十人の寄進者の連名が見える。そこには、地域の新屋敷や下の谷の世話人ばかりでなく、隣接地藤沢宿河岸商人仲間とともに、東浦賀や西浦賀の人々の名が見え、ここから地域流通拠点としての片瀬湊の一端がうかがえる。

さて馬喰橋には「弘法大師が来られ

て』この橋辺りで馬が難儀に遭うのは橋の台に因縁があつて馬が倒れるのだ」と云われて橋の台を取り換え、古い台を持って穴居修行され、その後は何の支障もなくなった、その場所が岩屋不動である」と言う言い伝えの一つがある

実は鳥居の河岸商人仲間というのは、藤沢宿各町内の船頭及び船乗りなのである。地域と考えれば、江の島の船頭たちの名があつてもよさそうであるが、江の島宿とは別仲間だけである。反対に馬喰らいの言い伝えを考えれば、馬主たちの名前が見えても良さそうであるが、それも見えない。馬による物流と船による物流が競い合うようなことがあつたとすれば、船を使って欲しいと言う想いが地域にあつたとしてもおかしくない。真偽のほどはわからないが、馬喰橋と岩屋不動には深い関係がありそうである。

なお、江の島道を左に曲がる角には道標が立っており、片面には「岩屋不動明王入口」、もう片面には「岩谷不動明王入口」とあり、岩屋・岩谷どちらを使っても良いようである。



岩屋不動
入口道標

片瀬小学校創立150周年記念

「かたせのうた」に参加して

7月27日に開催された片瀬小学校創立150周年イベント「かたせのうた」は片瀬五町囃子、江の島囃子、龍ノ口片瀬睦会のお御輿・お囃子で賑やかに開会しました。

校庭は子どもと地域住民達で溢れ、特設ステージ、パフォーマンス広場の演舞、子ども縁日、キッチンカーなどが揃い、お祭り広場のようになった校庭で楽しそうに過ごしていました。

体育館を会場にした、150周年大回顧展では壁一面の展示物が片小の歴史を語り、その当手を懐古させてくれました。

講演会には「片瀬だより」で『ふるさと片瀬く今昔あれこれ』を執筆頂いている中村喬さんをはじめ、片瀬にゆかりの深い方々により、戦後直後の学校生活や町内の生活風景が、また、東日本大震災とコロナ禍中の学校対応が紹介されました。

創立150周年誌の関東大震災翌年の新校舎上棟式の写真に「まちは小学校復興の喜びと希望であふれ、笑顔に包まれた」とあります。いつも地域が大切にしてきた片瀬小学校だと感じました。

このイベントも片瀬小学校を大

切にする住民が集い、開催されました。今も片瀬小学校を応援する住民の想いを強く感じました。

夕暮れの校庭ではいよいよ会のフィナーレ片瀬小学校の愛唱歌「かたせのうた」の全員合唱が始まりました。学校に通う子どもたち、卒業生、地域の皆さんが大きな声で歌います。アンコール！の声が子どもたちから上がり、もう一度「かたせのうた」の歌声が校庭に拡がりました。



ポスターもすてきでした



お御輿の様子

【講演会】

日時：10月19日（土）

午前10時30分～正午

登壇者：進藤 宏行氏

（150周年記念誌編集長）

題名：片瀬小学校150周年記念イベント「かたせのうた」を終えて

※同時開催

【写真展「懐かしの片瀬小学校」】

日時：10月19日（土）20日（日）

場所：片瀬公民館本館 第2談話室

（古本市会場）

ふるさと片瀬く今昔あれこれ④

中村 喬

「藤沢市歌ダンスの思い出」

私が生まれたとき「ふるさと片瀬」は鎌倉郡片瀬町だった。昭和十五年に藤沢町が藤沢市になった。昭和二十二年に片瀬町は鎌倉郡から離れて藤沢市に編入・合併することになった。

その後昭和二十五年に市制十周年を記念して市歌がつくられた。その藤沢市歌にダンスが振り付けられた。私が中学生だった頃、片瀬中学校の体育祭では必ずこのダンスが披露された。体育着からスカートに着替えた女生徒たちが校庭いっぱい広がる姿を今でもはっきりと思い出す。長い丈の紺色のスカートに紺のソックス、白い運動靴が秋の陽に映えて美しかった。歌の歌詞に合わせてその心を優雅に表現する姿に見とれ、男子生徒も親たちも大きな拍手を送った。小学生たちは中学生になると「市歌ダンス」が踊れると胸を高鳴らせた。

しかし時代の流れとともに市歌ダンスは学校から消えていった。

二十一世紀になってこの「市歌ダンス」を何とかして記録に残したいという動きが起った。当時の片瀬中学校で指導された先生や教え子たちが集まった。四十年ぶりのダンス再現だった。幸

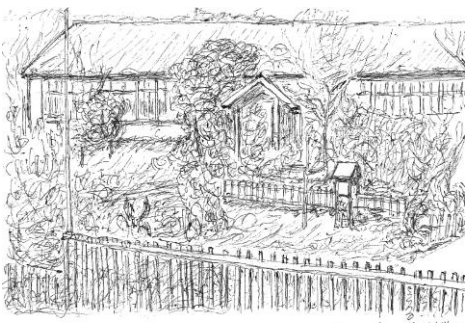
せなことに私もその場に立ち会うことができた。この話を聞きつけてマスコミも取材に入った。果たしてうまく踊れるのだろうか。蓄音器が用意され当時と同じ井口小夜子さんの歌声がSPレコードから流れると記憶は少しずつ蘇っていった。そして、見事に復元することができたのだ。

この出来事はNHKのテレビニュースで報じられ、毎日新聞の記事にも取り上げられた。

令和の今、テレビから流れるダンスや歌はアップテンポの曲に合わせて激しい動きのものが多く。それに比べるとゆったりと曲に合わせて優雅に踊る市歌ダンスは昭和の一時代表を象徴する貴重な文化だったのだと改めて思う。

【ダンスの輪開いて閉じて

秋うらら



片瀬市民図書館からのご案内

電話28-6935

市内に在住、在勤、在学の方ならどなたでも、一人10冊まで2週間借りられます。

（開室時間）

火・日曜日

午前10時～午後5時

《新刊案内》

『あなたを待ついくつもの部屋』 角田 光代

『わたしの知る花』 町田 その子

『離任（辻番奮闘記6）』 上田 秀人

『人生は苺ショート』 林 真理子

『さらば故里よ（助太刀稼業一）』 佐伯 泰英

『スパイス&ハーブの教科書』 もっと自由にもっと楽しく 水野 仁輔

『ハツエおばあちゃん』 電子レンジでラクラクごはん 高木 ハツエ

『るるぶ横須賀・三浦・逗子・葉山2024』

『ドラえもん学びワールドスペース』 シャルわくわく科学実験

『世にもこわい博物館5分ソツとする結末』 黒 史郎

藤子・F不二雄

黒 史郎

のぞいてみよう！公民館

「片瀬地区ふれあいまつり」

今年45回目を迎える片瀬地区ふれあいまつりが、10月19日（土）・20日（日）に行われます。

【片瀬公民館】

◎模擬店

◎講演会「片瀬小学校150周年記念イベント「かたせのうた」を終えて」

◎音楽芸能部会・片瀬中学校合唱部発表

◎慶應義塾大学環境情報学部生によるワークシヨップ

◎古本市

◎秋津書道会／片瀬小学校児童作品展示

【片瀬しおさいセンター】

◎模擬店／キッチンカー

◎スポレク部会発表

◎ワークシヨップ

◎サークル・地域団体による活動・作品展示

◎片瀬中学校吹奏楽部・富士見保育園児・のぞみ幼稚園児による発表

◎サークル体験

◎サークル体験

◎サークル体験

編集後記

「片瀬だより」も第139号になりました。今回の内容はいかがだったでしょうか。文章は読んでいただいて初めて命が宿ります。地域の皆さんの「読んだよ」の声が私たち編集に携わる者たちの力になります。

これからも読後の感想などを聞かせていただくと嬉しいです。(N)